

巻頭言

平成21年を如何に生きるか

近畿大学医学部長

近畿大学医学部外科学教授

塩崎 均

平成21年の年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年10月1日付けで医学部長に就任いたしました。

4年間の病院長の任期を無事に過ごさせて頂きましたのは、近畿大学医学部同窓生の皆様方のご支援の賜と心より御礼申し上げます。

さて、昨年は、遙か遠くのアメリカのサブプライムローンに端を発した世界経済恐慌の嵐が、わずか数ヶ月という瞬く間に世界有数の企業にのし上がったトヨタ自動車をも一気に赤字に転落させました。最近の10年間はIT全盛のグローバル化時代となり、例えばカーナビと言われるような従来では考えられないような情報を簡単に手に入れることができるようになりました。アメリカの国防省(ペンタゴン)が開発し極秘に独占してきたITの世界への公開を通じて、あらゆる情報が瞬時に世界を駆けめぐり時代となりました。これを科学の進歩の結果と捉えるならば、それは、我々に途方もない情報選択の自由を与えたこととなります。ITを利用できない者は知識人(知性の高い人)ではないとの錯覚を起こしてしまっている現状があります。改めて、知識と知性の違いについて再認識する必要があるように思います。知識(information)と知性(intelligence)は明らかに別物です。知識は知性の裏付けの下で初めてその真価を発揮することができるのではないのでしょうか。知性なき、モラルなき知識人が実態のないお金をインターネットの上で操った結果が今日のこの大混乱の元凶だと考えます。



科学は進歩するにつれ、世の中を細分化し、専門化、断片化していきます。このことは、とりもなおさず人と人との繋がりを希薄化し、孤独な人間を多く作る結果となります。その上に今回のような経済恐慌が起き、「契約切り」と言われるような状況が起こると、どうしようもない絶望感を抱いて自暴自棄になってしまうのが一般的な反応ではないのでしょうか。しかしながら、このような状況下でも、家族の絆、人と人の強固な信頼関係があり、自分自身の足下をしっかりと固めていけば、希望の光が見えるのではないのでしょうか。今、お互いが信頼し合い、助け合うことこそが現状を打開し明るい未来への扉を開くことになると確信致します。

塩崎 均

近畿大学医学部においても、教職員、医学部生はもとより患者さんもふくめて、お互いが信頼し合い、助け合うことによりこの苦難を乗り越え、今年を明るい一年にできるように頑張ってください。